

第4回京丹波町総合計画審議会（総務文教部会）議事録要旨

令和7年2月19日（火） 午前10時40分～11時45分

開催場所：京丹波町役場 防災会議室

＜出席委員＞坂本委員、三好委員、山根委員

4. 部会による協議

（事務局より趣旨説明）

【意見交換】

委員：京丹波町がこうなったらいいなという思いや意見を、ざっくばらんにしていた
だければと思う。

事務局：この表の真ん中が、施策の一覧表になっているので参考程度にご確認をお願い
します。

委員：表を見ると、いろいろな施策があるんだと思う。

委員：普段は亀岡に仕事に出ているのですが、4月になると狂犬病の予防接種で京丹波
町に回ってくるが、その先生が京丹波町に行くのがすごく楽しみだとおっしゃ
っていた。亀岡の桜が終わった頃に京丹波町では桜が咲いている。長く桜を楽
しめるとおっしゃっていた。京丹波町に住んでいて気付かなかった点である。
また、美味しいお店が多くて、京丹波町の食に興味を持ってくださって、枝豆
や栗の時期になると道の駅めぐりをされたり、自分で食べておいしいから、お
世話になっている別の地域の方への贈り物として選んでくださったりしている。
住むのには不便さを感じるかもしれないが、日本のふるさとというイメージが
ぴったりだなと。訪れるとホッとするし、ご飯もおいしいし、景色も楽しめる
しということで、京丹波町とは別の場所に住んでいる方が魅力を見つけてくだ
さっている。

事務局：町外の方にしっかりとプロモーションを行って京丹波町のファンを作ってい
くのは大事と感じる。

委員：この審議会に参加して面白いなと感じたのは、観光客の入込数が、京都府の中
で京都市、宇治市に次いで3位だということ。たしかに、旅行する時はあのイン
ターで降りていることに、京都市民からしたらあそこが京丹波町だとあんまり
気づいていない。そこに対してどう情報発信していくかということだと思う。
京丹波町のサービスエリアには情報発信エリアはあるが、「ランチが美味しい」
とかそういった情報があまりなく、ありきたりな、役所の発想の一般的な情報
しか置いていないので、もっと地域に密着した情報を発信していけるかが大切
なのではないか。広報のプロモーターがまだ弱いのではと感じる。どうしても

役所は公平性や中立性を考えてしまうのかもしれないが、商売につながるような情報発信を戦略的に行う必要があると思う。たとえば、真田広之主演の『里見八犬伝』では、告知にはないですが琴滝が出てくる。また、『べらぼう』も京丹波町でロケ撮影されている。京丹波町の人には知っていますが、他市町の人には知らないと思う。そういったことをもっと外向けに、上手に発信できる方がいたら良いのになと思う。琴滝は『里見八犬伝』以外にもたくさんの時代劇などの撮影場所になっているので、映画や大河ドラマのファンを呼び込む余地があるのではないかなと思う。行政としては、民間の映画会社が制作しているので宣伝してはいけないと思っているのかもしれない。

事務局：たしかに昔はそういった感覚も強かった。いまは町の活性化に役立てるよう「プロモーション戦略室」を作って頑張っているが、まだまだ足りていないのかもしれない。インフルエンサーなどの能力のある方を起用した方が良いのかもしれない。NHKは厳しく管理されているので、事前に告知をすることが難しいという現状もある。京丹波町の観光協会で誘致も行っているが、まだ頑張らねばならない部分が多いなと思う。

事務局：撮影当日はガードが堅いが、後からどう発信していくかとか、プロモーションをどう展開していくかを考えると、発想が大事なのかなと思う。共有させていただく。

委員：たしかにPRすることも大事だが、まずは京丹波町に興味を持ってもらうことが必要である。興味を持ってもらわなければホームページも見てもらえません。なかなか難しいことですが、京丹波町に17年通勤して思うのは、町自体の「変化がない」というのが「売り」なのではないかということです。さらに、起業されている方や新しいカフェ・レストランをもっとPRして呼び込むのも良いと思う。「黒豆街道」というマップなどもあるので、町内にもっと楽しいところがあるというのを知ってもらえたら良いと思う。「味夢の里」もあるので降りてもらえると良いが。

事務局：丹波インターと距離が近すぎるので、「味夢の里」からは降りられない。

委員：「味夢の里」にも駐車場がたくさんあるので、そこから一般道に降りていただくなど、大胆な発想もしてもらえると、またここに降りてみようかなとなるかなと思う。丹波インターで降りて「味夢の里」に来ていただけると良いが。

まちを元よく持続可能な形で。やはり小さい時から、地元を知って郷土愛を育むことが大切だと思う。そうした人材を育成する必要がある。幼小中高が一体となって京丹波町の子どもを育てていけるような取り組みがあれば良いと思う。併せて、せっかくホッケーを一生懸命やっているのに、ホッケー人口が少なくなっていることが残念。クラブチーム化や整備など考えてもらいたい。そ

れと、木造の小学校のような歴史的な貴重な資料も多くあるので、そういったものもまとめて、探求学習の一環として地域を知ることが大事だと思う。

委員：「地域を知る」というのは非常に大事で、それがないと良い部分も分からないと思う。小学校や中学校の探求学習で文化を知ってもらうのも大切。山城や頑張っている方の生の声を聞いたり見たり、五感で感じる事が大事だと思う。今後さらに、どうブラッシュアップしていくかが課題だと考える。

委員：「山城」の大切さがピンと来なくて、子どもと見に行った時に大切さを分かってもらえるのかなという疑問がある。地形を生かした公園やアスレチックがあったら良いのかなと思う。

事務局：いろいろな見方ができますが、「山城」は地形を見たり、人のルーツを考えたり、京丹波町を中心に人の流れや文化を、皆さんに刺さるように面白く伝えていけると良いなと思う。

事務局：子どもの頃は、石垣が残っていて、「探検だ」「秘密基地をつくろう」と楽しんでいた。山城そのものは知識がないと面白くないかもしれないが、何かの遊びに組み合わせられると良いのかなと個人的には思う。親しみが持てるやり方があると良いのだが。

委員：石垣を崩すわけにはいかないが、その近くに公園があると良いかもしれない。

事務局：せっくなので活性化につながるようなものがあると良い。先ほどホッケーの話が出ましたが、どちらかといえばマイナーなスポーツであり、京丹波町でもホッケーの競技人口が減ってきてしまっているが、みずほにホッケー場があってシーズンによっては関西一円のクラブチームがナイターで活用していて、すごい数の子どもたちが活用している。そういったことも発信していけるよう、ホッケーも文化の一つになっているので、その火を消さないように、子どもの数が少なくなっている中でジュニアの保存に力を入れていきたい。

委員：ぜひとも小学校から来ていただきたい。

事務局：高校のホッケー部が小学校や中学校に行って練習したりしていた。

委員：今も年に何回か中学生と一緒にやっている。

事務局：昭和63年の京都国体の会場になって、役場でもホッケー部を作って推進していた。よくみずほのチームや高校とも試合していた。その時は、ホッケーだけでなく国体に来る選手の宿など、町を挙げて人との関わりを作って盛り上げていた。今でいうスポーツ推進委員のような方が町民に教えることもあった。次の国体もまた来るんでね。

委員：10年後ぐらいか。今度は滋賀か。

委員：町全体で盛り上げていきたい。

委員：「サッカーだったら山雅」のように「ホッケーだったらどこ」みたいなものはな

いか？生の試合を観戦する機会がなかなかなくて、イメージがあまり湧かない。

事務局：企業のチームだったら、女子はコカ・コーラとか、男子は広島クラブとか、昔は丸紅とかもあったが、関西ではあまり聞かない。名古屋には有名なチームがあるので、生で試合観戦できる機会があると良い。

委員：U18とかU20の選手がいるので、ぜひそういった機会を作りたい。

事務局：京丹波の子育てや教育関係についてはどう思われるか？

委員：こども園の土曜保育の利用が12時までと聞いている。12時までに帰ってこられる仕事というのはどういうものを想定しているのかなと思う。また、学童保育が18時まで、こども園が18時半までということで、どちらにも子どもを預けていると迎えに行くのが大変ではないかなと思う。上の子の方がもう少し長くても良いのではないかなと。でも、学童も先生不足で大変なのを知っているので、あまり無理は言えないなとも思っている。

事務局：役所じゃない視点から物事を見た時にどうなのか、実際にどういったニーズがあるのか、色んな話を聞かせていただくと、家庭でそれぞれ違うので難しい部分もある。

委員：私は子育てをされていて不満に思ったことは特にはないのですが、最近の話ですと、こども園が次の入園・在園児から全員基準服着用になるという説明があったよう。今までは基準服に似たものや私服でも良かったのですが今後は全員基準服を着なければいけないということで、卒園される方にお下がりが欲しいと声を掛けている方もいらっしゃるよう。来年度卒園される子も、あと1年なのに買わなければいけない。そういった部分への補助があると良いかもしれない。

事務局：サイズは卒園まで着られるものか。

委員：うちの子は小柄だったので1着買って卒園まで着られたが、子どもの成長による。

事務局：参考にさせていただく。

委員：こういったプロジェクトは横断して行っていく必要があると思うが、昨今の物価高や米不足等から、自分で作ってみたいというニーズがあると思う。「食の街」を謳っているのであれば、そのニーズをどう取り込むか考えると良いかもしれない。たとえば、「DASH村」のような、農家のおじいちゃんが都会の子に教えて触れ合って、地域の子も集まって体験できるような環境が作れると良いと思う。夢物語かもしれないですが。京都市内から1時間もあれば京丹波に来られるので。

事務局：ほかに何かあるか。

委員：忌憚なく意見の交換をしていただいたが、京丹波町が元気な街として存続していけるよう、引き続きよろしくお願いします。